（別添3）　　平成　24　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4470400732		
法人名	社会福祉法人　紫雲福祉会		
事業所名	グループホームおおつるの家		
所在地	大分県日田市大鶴町2267-1		
自己評価作成日	平成25年2月18日	評価結果市町村受理日	平成25年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成25年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・職員とのチームワークがよく、互いに助け合い、みんなが一つになって利用者中心に考えてお世話している。
・職員の笑顔は利用者の笑顔である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・理念は、「共に感じる・地域との交流」と明文化し、「尊敬の念を持って接する」を目標とし、「優しい声掛けと丁寧な対応」で、日々のケアを行っている。
・理念に沿って、地域との交流を大切にしている。例えば、事業所を地域住民の避難場所としての提供したり、ホームで餅つき大会を開き、一人暮らしの高齢者に配るなど地域と密着した行事によりふれあいが多く、利用者の笑顔につながっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域行事への参加し、地域との交流を深めている。	理念に「共に感じる・地域との交流」と明文化している。「尊敬の念を持って接する」を目標としている。また、方針として、「優しい声掛けと丁寧な対応」を挙げ、共用空間に掲示し、日々のケアの中で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民として迎えられている。職員が挨拶を心掛け、年間行事を通じて地域との交流をしている。	自治会長と連携をとり、地域住民の一員として活動している。例えば、ふるさと祭りや放生会、地域の一人暮らしに配る餅つき、保育園児による豆まきなど多くの行事を催し、活発に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のミニデイサービスに職員を派遣し、体操や、相談に応じ支援の方法の検討等を気軽に話し合える場を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族が開銀参加することにより、市政を身近に感じられ、意見を取り入れることにより、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議での意見を参考に、地域への会議場や避難場所の提供、独居老人に配る餅つき大会などを企画し、住民との触れ合いの場となっている。また、利用者や家族が、身近な行政にふれ、市の政治に関心が生まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や、疑問にもったことは、積極的に電話でも尋ねることにしている。	運営の問題点について、意見をもらったり、グループホームの新設や共益費について質問をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほぼ問題なく取り組まれている。個々の利用者の状況に合わせて、職員会議で議題に挙げ、共通の課題として認識をしている。	身体拘束をしないケアについて話し合いをしている。また、夜間のみ立ち上がりセンサーを使用しているが、家族に転倒のリスクを詳しく説明し、了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	恥をかかせないように介護をするを心掛けて、特に言葉づかいには注意をしている。		

事業者名：グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一名の利用者が成年後見制度を使っている。なるべく多くの方が制度を利用できるように、声掛けをしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改正の都度家族には説明をし、緊急でない場合は年2回の家族会にて説明をし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内のことであれば、職員会議や運営会議の議題として取り上げている。外部のことであれば、運営推進会議で取り上げ、話し合いの場を設けるようにしている。	運営推進会議に、順番制で家族に出席してもらい、その席で意見をもらっている。また、面会時や電話で意見を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、主任を通じて意見を聞き、運営会議で議題に挙げている。	定例会議や日々のケアの中で職員の提案や意見を聞いている。その意見は、会議で検討して、運営に反映をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の生活環境を考慮し、勤務体制を整備している。一人一人の状況を把握できるように時間を作り、会話を心掛けている。給与水準については、納得のいく給与水準になかなかできない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各個人に必要と思われる外部研修は受講していただいている。そのためのシフト移動も可能としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会において、合同の勉強家を開催予定である。		

事業者名：グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報に基づき、本人の希望に添えるような、安心して生活ができるように		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時に頻繁な訪問をお願いし、双方の関係が継続できるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方との会話の中から、アセスメントを深めていき、支援方法を検討していくように心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方が出来ることや、得意なことを引き出せるように、日常の場面を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告で、情報を共有できるようにしている。必要であれば、電話にて、状況を伝え気軽に聞ける関係つくりを心掛けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は命日に自宅に帰り、時には近所の方とお茶のみをしていたが、現在は本人の体調が悪くなりできていない。なじみの方に、いつでも来ていただけるように声掛けは行っている。	一人ひとりの希望をできるだけ聞くようにしている。馴染みの関係が継続できるように支援をしている。帰宅願望の強い利用者には、命日に帰宅支援を行っている。また、散髪に出掛ける、散髪に来てもらう。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の障害の程度を考慮し、食堂での座る位置をある程度設定させていただいている。状況を見て変更することもある。		

事業者名：グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状等で、いつでも相談できる関係継続に心掛けている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者を中心に、職員会議で情報の共有に努め、可能な限り意向に添えるように心がけている。	思いや意向を大切にしている。仏壇を持ち込み、毎朝、佛飯をお供えし、お経を上げるなどしている。アセスメント用紙は、客観的に事実を加筆し、ケアカンファレンスで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回時に情報の読み込みをし、生活の中で発見があったら、職員会議で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の記録を細やかにとり、現状の把握ができるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で、チーフを中心に現状の確認と、今後の課題の検討に努めている。	家族や利用者の意向をもとに、会議を開き、利用者本位の介護計画書を作成している。短期目標をもとにモニタリングを行い、現状維持やプランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録として残し、職員会議にて共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一敷地内のデイサービスや、同一家屋内のヘルパー事務所に顔をだし、何時でも職員からの援助が得られるようにしている。		

事業者名：グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との共同の行事に参加し、昔の生活や習慣を体験していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の治療を継続し、可能な限り家族の同伴をお願いしている。	かかりつけ医の受診は、基本として家族対応となっている。緊急時は看護師が常駐しており、医療機関と連携し、適切な医療が受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況や服薬状況を把握して、状況に応じたアドバイスを他の介助者にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院直後や退院前には関係者と面談し、情報提供をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、説明をし納得をしていただいている。状況の変化に応じて、いつでも相談できる関係つくりに心掛けている。	重度化やターミナルについて、利用開始時に家族に説明を行っているが、状況によっては、いつでも変更できる仕組みとなっている。現在、重度化のため、特養に申し込みをしているが、待機者が複数いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で、消防署職員による講義、演習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練では、全員が対応できるように交代で行っている。地域住民による緊急連絡網を自治会長が中心となり作成していただいている。	災害のパターンを変え、毎月、避難訓練を行っている。地域と協力体制をとり、備蓄は地域住民分も含め２００食用意している。日田市と防災の契約を交わしている。	

事業者名：グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が各個人を尊重した対応を心掛けている。	難聴の利用者にはジェスチャーや筆談を行うなど利用者一人ひとりの状況に対応し、プライドを傷つけない配慮がある。とくに排泄の誘導時にはプライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で出てくるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその人の生活スタイルを維持できるように、心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装になるように、担当者を決め、家族との連絡を取り、可能であれば新しい服を持ってきてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を食べる喜びを感じてもらえるように、心掛けている。	利用者の食べる喜びを大切にした献立であり、3食とも手作りである。また、利用者の意見を基に味付けをしている。本人の意向に沿って、粥食や刻み食にしている。マンネリ化や栄養バランスについて併設の栄養士に意見をもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を記入し、一目でわかるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が毎食後に口腔ケアをしてる。本人の状態に合わせ、状態に応じた対応をしている。		

事業者名：グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを職員は把握して、必要に応じたトイレ誘導をしている。	男性の利用者が4人おり、おむつにならないようにリハビリパンツ、パットや尿器で対応をしている。トイレでの自立は2人おり、常に職員が見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の中に食物繊維の多いものを取り入れ、なるべく水分を多く取ってもらうようにし、便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく希望に添えるようにしている。しかし、入浴は二日に一回になっている。	入浴はできるだけ希望に添えるようにしており、週3回行っている。リフト浴やシャワー浴など、個々の機能に合わせて入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠時間が違うので、個々の就寝時間は違う。その人が、気持ちよく寝れるようにココに対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心とした確認を取っている。それぞれの担当者が薬をセットし、夜勤者が一日分の薬を準備することで、全体で把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴よりその方の得意とされたことが、少しでも生かせるように、事前に情報を共有して、役割を持っていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きつけの店や、家族と連絡を取り可能な限り出かけられるよう配慮している。	園芸を楽しむ利用者には、畑が一望できる部屋を提供し、野菜作りに勤しんでもらっている。また、柿ちぎりや馴染みの店、家族との外出、外食、花見、ドライブなど数多くの外出支援を行っている。	

事業者名：グループホームおおつるの家

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や、外出jには管理のできる方はご自分で管理をしていただく。そのほかの方は、職員が預かり、支払いをする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かける人は年賀状の作成をし、その他の方は代筆をしている。電話での対応は臨機応変に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるようなレイアウトを心掛けている。耳の遠い方が多くなり、テレビのボリュームはかなり大きくなっている。	共用空間は、利用者に馴染みの深い、地元の日田杉を使い、吹き抜けで、建具もすべて木目の柔らかさを出しており、設立時の思いが伝わる造りである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人の座る位置が自然と決まっており、気の合った利用者と、過ごす時間がある。意図的に座る位置を変えることがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や以前使われたものを飾り、安心できる空間つくりを心掛けている。	家族の写真や仏壇、趣味の作品、丹精をこめた菜園が一目で見られる部屋づくりである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく食事は自分でとれるように工夫している。		